

課題解決に必要な方法や手順を自ら選択しながら追究できる児童の育成

—「見通しシート」と「あきらかカード」を活用した活動計画と振り返りを通して—

前橋市立広瀬小学校 佐藤 潤一

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総合的な学習の時間編では、育成を目指す資質・能力の一つである「思考力・判断力・表現力等」について、「身に付けた『知識及び技能』の中から、当面する課題の解決に必要なものを選択し、状況に応じて適用したり複数の『知識及び技能』を組み合わせたりして、適切に活用できるようになっていく」と記されている。

本学級の児童（第 6 学年）は、これまでの総合的な学習の時間の中で、課題解決に向けた方法（何のためにどんな活動を行うのか）や手順（どんな活動をどんな順序で行うのか）がつかめず活動が滞り、教師からの指示に頼ることが多く、方法や手順を自ら選択し活動する経験が少ない。さらに、指導上の課題として、体験活動や調べ学習の目的が明確でないまま活動させてしまっていることや、教師が個々の児童の計画を把握して個別支援をするのが難しいことが挙げられる。そこで本研究では、児童自身が追究の過程を意識しながら課題解決に向けた方法や手順を選択したり、見直したりする活動を、単元を通して充実させるため「見通しシート」と「あきらかカード」を活用し、課題解決に必要な方法や手順を自ら選択しながら追究できる児童の育成を目指していくことを主題として設定した。

II 研究のねらい

課題解決に必要な方法や手順を自ら選択しながら追究できる児童を育成するために、「見通しシート」と「あきらかカード」を活用した活動計画と振り返りの場面を設定することが有効であることを、授業実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

「見通しシート」と「あきらかカード」を活用し、児童が課題解決に向け、これまでに各教科等で身に付けてきた技能の中から必要なものを適切に選択しながら活動計画を立て活動後に振り返りを行い、計画の見直しをするという流れを継続的に行う。このことで課題解決に必要な方法や手順を自ら選択しながら追究できる児童を育成することができるであろう。

1 手立て 1 【「見通しシート」の活用】

「見通しシート」を活用することで、児童自身が追究の過程や時数を意識した活動計画の立案や、児童同士での活動計画の確認と見直し、活動計画の振り返りができるようにする。

2 手立て2【「あきらかカード」の活用】

「あきらかカード」を活用することで、児童自身が毎時間の授業で活動計画の確認、活動の振り返り、次の時間の活動を再計画できるようにする。また、教師が児童の活動計画を把握し、一人一人に応じた支援を行えるようにする。

IV 実践内容

本研究では、第6学年（児童数21名）の総合的な学習の時間「広瀬UD（ユニバーサルデザイン）プロジェクト～みんながくらしやすい広瀬をめざして～」において授業実践を行った。

1 手立て1【「見通しシート」の活用】の概要

「見通しシート」とは、単元の課題（以下、ALL-TIME 課題）・個別課題（以下、My 課題）・追究の過程全体の活動計画を児童が記入するシートである（p. 81 資料1 参照）。

活動計画を記入する表には、学級全体で行う活動をあらかじめ載せておき、計画する部分を空欄にしておいた。児童は、My 課題や時数を意識しながら空欄に活動計画を立てることができた（図1）。

ALL-TIME 課題や My 課題を設定する際には、課題が児童にとって解決の必要性の高いものになるように、共通の体験活動時の写真や児童の気付きや疑問等を掲示した「総合の時間学びコーナー」を提示した（図2）。

活動計画を考える際には、児童が追究の過程を意識し、各教科等で習得した技能から選択しやすいように、学習の進め方と今までに習得した技能を児童に想起させながら一覧にまとめた「学習の技」を提示した（図3）。また、個別に活動計画を考えた後、その活動計画は課題解決につながるものであるか、時間配分に無理がないかを児童同士で「見通しシート」を見せながら話し合う場面を設定した。

この「見通しシート」は、手立て2で紹介する「あきらかカード」とともに、「総合ファイル」（図4）に見開きで綴じ、学習の途中でも自分で見直して修正したり、授業開始時に、取り組む内容を確認したりできるようにした。

図1 児童が記入した「見通しシート」



図2 総合の時間学びコーナー

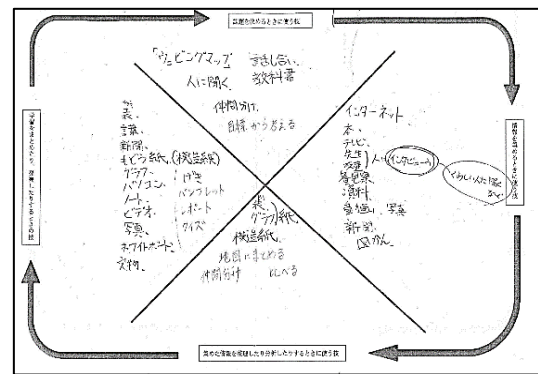


図3 学習の技

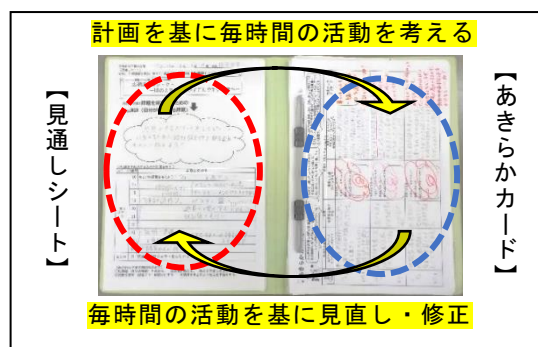


図4 見開きで閉じた総合ファイル

2 手立て2【「あきらかカード」の活用】の概要

「あきらかカード」とは、毎時間の学習のめあてや活動内容、振り返りや次時の活動計画、教師からのメッセージを記入するカードである（p. 81 資料2 参照）。

毎時間、授業終了前に記入する時間を設定した。児童は、本時のめあてが、どのくらいあきらかになったかを「あきらか度」や文章で振り返るとともに、次時のめあてと活動計画を記入した。また、教師からのメッセージ欄には、児童への称賛の言葉や助言を記入し、児童が次の時間の開始時に確認できるようにした（図5）。

図5 児童が記入した「あきらかカード」

3 結果と考察【手立て1・2】

「総合の時間学びコーナー」を参考にしながら、児童は学校や地域、公園、お店などのユニバーサルデザインに関するMy課題をそれぞれ決めることができた。振り返りには「My課題を決めることができたので、解決に向けどうしたらよいかを細かく考えたい」といった記述が見られ、課題が児童にとって解決の必要性の高いものになったと考えられる。

「見通しシート」による活動計画の立案の際には、「学習の技」を参考に、限られた時数を意識しながら、追究の過程で必要な方法や手順を児童自身で選択したり、新たに考えたりして活動計画を立てることができた。自分で立てた活動計画が課題解決につながるものであるか、時間配分に無理がないかをグループで話し合う場面では、「見通しシート」に書かれたMy課題と活動計画を照らし合わせながら考える様子や、方法や手順を見直す姿が見られた（図6）。さらに、この「見通しシート」から、各児童の活動計画が追究の過程として適切であるか教師が確認し、修正が必要な箇所については個別指導を行った。児童からは、「計画を立てる力が身に付いた」「すべき事を見直せた」「順序よく活動が進められた」との声が聞かれ、「見通しシート」を活用したことで、児童自ら選択した課題解決の方法や手順を基に学習活動を進めていくことができたと考えられる。

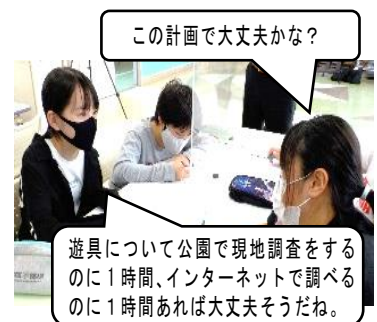
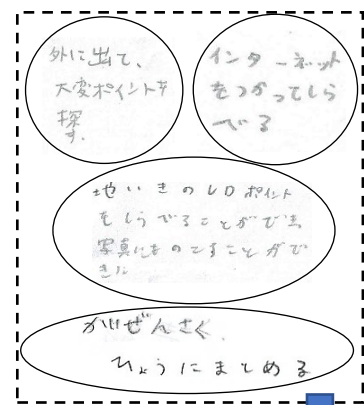


図6 「見通しシート」を活用した話し合い

追究の過程では、毎時間、「あきらかカード」を活用しながら学習を進めた。この際、活動の成果や課題を振り返ること、「見通しシート」に記入した課題・当初計画・残り時数を基に、次時のめあてと解決に必要な方法を再計画することを指導した。児童は、「あきらかカード」に記入した解決方法や振り返りを基に、「見通しシート」を見直したり、実際に行った活動を活動計画に書き足したりすることができた。地域にある使いにくいものや場所を調べているA児は、「見通しシート」に、当初から計画し手順通りに進んだ箇所は丸で囲み、活動中に変更があった箇所



第2 次 時 間	6	My課題（自分が解決する課題）を決め、学習計画を練ろう。	
	7	中間交流会に向けて情報をあつめる（ネットや現地にいく）	
	8	''	（写真とる）
	9	その情報を整理する ←（その準備は、大変ポイントを）	
	10	''	（まじめる、（笑）にまじめる）
	11	中間交流会本番に向けてまじめて練習する	
	12	''	
	13	中間交流会①	
	14	中間交流会②	

※この後2日時間目までつづきます※

【総合的な学習の時間の進め方】
 ①My課題（自分の課題）を決める。 ②情報を集める。（集める方法も考えよう）
 ③情報を整理・関係づけ・仲間わけする。 ④情報をまとめる人へ伝える準備をする。

図7 「あきらかカード」を基に見直しを行ったA児の「見通しシート」

所には「UD ポイントや改善点も」と付け加えていた（図7）。この後A児から、「見通しシートが今後、計画を立てる時のお手本になる」と発言があり、「あきらかカード」による振り返りが「見通しシート」での活動計画の見直しにつながったことがうかがえる。

『UD な文房具を地域の文房具店と協力して広めよう』という My 課題を設定し学習を進めたB児を例に挙げる。B児は、情報収集の場面で「文房具のUDを調べることができた」と振り返るとともに、次時も調べ学習を行うことを計画し、教師はこれに対して称賛の言葉を記入した。次の時間、B児は「あきらかカード」に書かれた称賛の言葉や計画、めあてを確認し、迷いなく、自ら活動に取り掛かることができた（図8）。

次に、整理・分析を行う場面では、B児が「集めた情報をどうやって整理したらよいか分からない」と悩んでいたのに対し、教師はUDの特徴に当てはめて分類してみることを助言した。次時では情報の整理が進み（図9）、「UD文房具の博士になれた気分です」と発言するなど、達成感を得た様子が見られた。

最後に、まとめ・表現の場面では、商品紹介ポップを作成し文房具店に置かせてもらうことで、UDな文房具を広めるという課題を解決することができた（図10）。単元終了時の感想では「この学習を通して、自分で活動を進めたり、まとめたりする力がついてよかった。これからの総合的な学習の時間でもいろいろなことを調べていきたい」と、今後の学習に対する思いを新たにしていた。

単元終了時に児童から「計画と目的を毎時間、確認して活動を始められた」「何をすべきか理解して活動できた」「成功や失敗を振り返り、次の活動を考えられた」との多くの声が聞かれ、「あきらかカード」を活用したことで、児童自身が学習活動に対する目的意識を明確にしなが課題解決に向かうことができたと考えられる。



図8 文房具のUDを調べる様子



図9 調べた情報を整理する様子



図10 文房具店へ協力依頼する様子と設置された児童のポップ

V 研究のまとめ

1 研究の成果

- 「見通しシート」を活用したことにより、児童が自ら選択した課題解決の方法や手順を基に学習活動を進めていくことができた。
- 「あきらかカード」を活用したことにより、児童自身が学習活動に対する目的意識を明確にしなが課題解決に向かうことができた。

2 今後の課題

- 追究の過程の中で児童が必要と感じる「知識・技能」が一人一人異なっていたり、偏りがあったりするので、教師が一人一人の児童に寄り添いながら、効果的・効率的に指導する手法について検討する必要がある。
- 今回は6学年を対象として研究を行ったが、3学年からの発達段階に応じた見通しの立て方を検討していく必要がある。

【資料1 見通しシート】

総合的な学習の時間 月 日 年 組 番 名前

【見通しシート】
 ◎ALL-TIME課題を解決に向けて、自分が取り組む課題「My課題」を決めよう！
 ALL-TIME課題いつも期に思いうかべる課題。

ALL-TIME課題を解決するための計画を練ろう！

活動のめやす

①My課題を解決するための計画を練ろう！

②情報を集める。(集める方法も考えよう)
 ③情報を整理・関係づけ・仲間わけする。 ④情報をまとめた人へ伝える準備をする。

①My課題を解決するための計画を練ろう！

活動のめやす

1 体験活動1 (おもちゃのユニバーサルデザインを学ぼう！)

2 体験活動2 (学校の新しいトイレの工事関係者からお話を聞こう！)

3 体験活動3 (学校にあるIDや使いづらい物・場所を探そう！)

4 ALL-TIME課題を見つけてよう (いつも頭にも思いうかべる課題)

5 ALL-TIME課題の解決に向けて今後の見通しを立て、計画を練ろう。

6

7

8

9

10

11

12

13 中間交流会

14 中間交流会

【総合的な学習の時間の進め方】

①My課題 (自分の課題) を決める。 ②情報を集める。(集める方法も考えよう)
 ③情報を整理・関係づけ・仲間わけする。 ④情報をまとめた人へ伝える準備をする。

【資料2 あきらかカード】

あきらかカード

年 組 番 名前

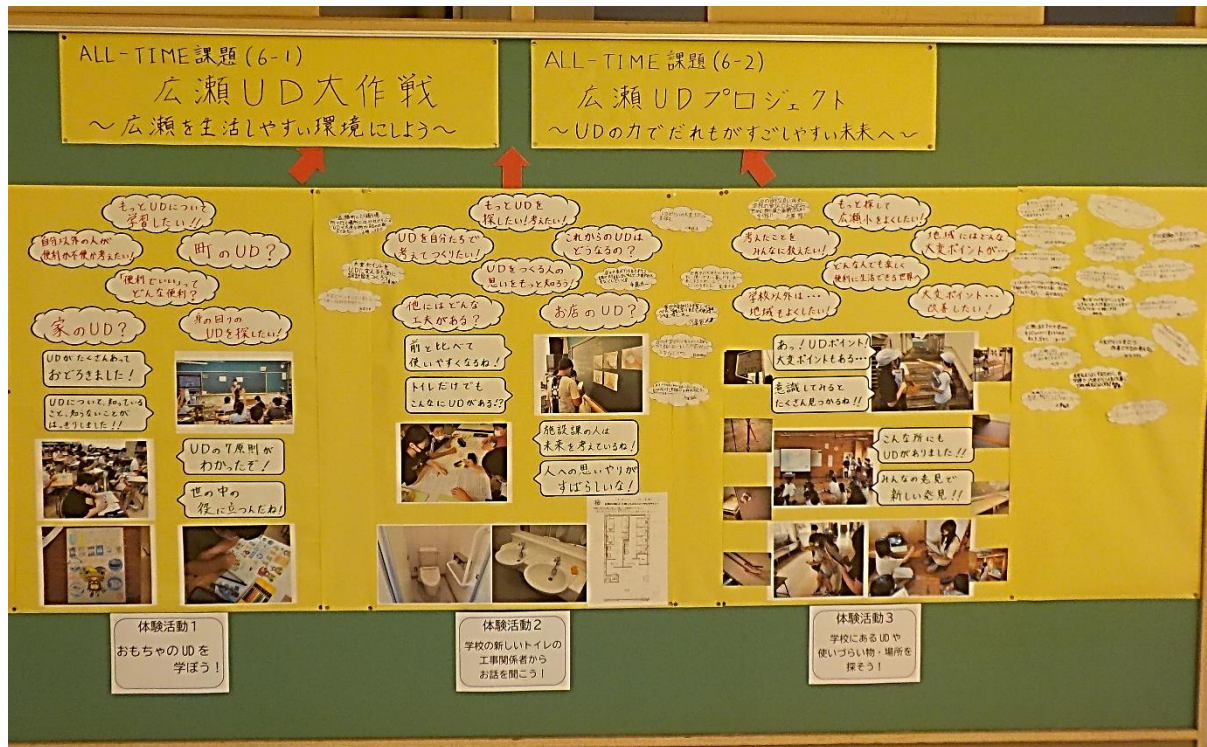
ふり返りの時間に次回の計画を立てましょう！
 次の時間をはじめる時にここを見ると、
 すぐに活動をはじめられていいね！

めあてに書いたことをあきらかに
 することはできたかな？ 新たな
 思いがわいてきたら言葉で書こう！

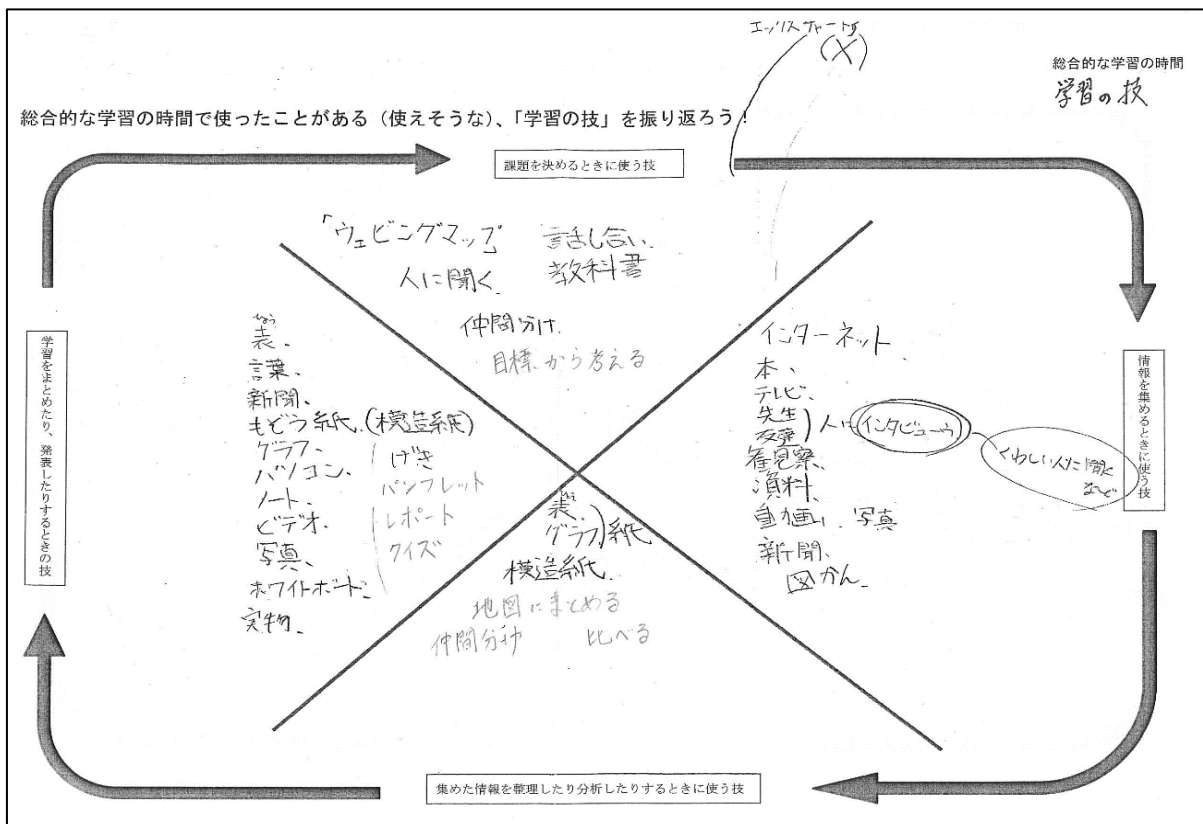
1時間の活動で何をあきらかにできたかな？ 何ができる
 ようになったかな？ 未来の自分に「○○の時は●●す
 るといいよ！」 「□□の資料を集めておこう！」 など、アドバ
 イスを送ろう！ ここを頑張って書くときぐく力がつくよ！

日付 DATE 日/月/年	今日のめあて あきらかにしたいこと できるようにしたいこと	計画 必要な活動や 方法	めあてに対してふり返ろう！ あきらかにできたこと できなかったこと あきらかに ○をつけよう！	あきらかに できたこと できなかったこと あきらかに ○をつけよう！	先生からの メッセージ
/			・あきらかにできた ・できた ・もやっとした ・解決しなかった ・新たな思いがわいてきた！ []		
/			・あきらかにできた ・できた ・もやっとした ・解決しなかった ・新たな思いがわいてきた！ []		
/			・あきらかにできた ・できた ・もやっとした ・解決しなかった ・新たな思いがわいてきた！ []		

【資料3 総合の時間学びコーナー】



【資料4 学習の技】



<参考文献>

群馬県教育委員会義務教育課 (2019). はばたく群馬の指導プランII

文部科学省 (2018). 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編 東洋館出版社